

【調査サマリー】

現場監督・所長、「施工でBIM活用」との回答が前年の16.2%から45.3%へ上昇

BIM活用が施工フェーズに拡大、BIM活用で「省力化」と「施工段階での手戻り防止」に期待の声

調査実施概要（調査元：BuildApp 総合研究所）	
調査期間：2025年3月21日～3月31日	回答数：322人
調査対象：全国の20代～60代の現場監督・所長322人	調査方法：インターネット調査（ゼネラルリサーチ株式会社）

【目次】

1. 「BIMの活用シーン」（複数回答）	2
1-1. 前年度比較（現場監督・所長の「施工でのBIM活用状況」）	3
1-2. 年代別	3
2. 「BIM活用に期待すること」（最大3つまでの複数回答）	3
2-1. 年代別	4
3. 「建設DXの現状」（単一回答）	5
3-1. 年代別	6
4. 「アナログ業務が多く効率化が遅れているプロセス」（最大3つまでの複数回答）	6
4-1. 2023-2025年度推移（アナログ業務が多く効率化が遅れているのは施工管理）	7
4-2. 年代別（アナログ業務が多く効率化が遅れているのは施工管理）	7
5. 「省人化・省力化を目的に活用できているデジタルツール」（複数回答）	8
5-1. 年代別（省人化・省力化を目的に活用できているデジタルツールはBIM/CIM）	9
6. 「デジタル化未対応による仕事への不安」（単一回答）	9
6-1. 2023-2025年度推移（「デジタル化未対応による仕事への不安がある」現場監督・所長の割合）	9
6-2. 年代別	10
7. 「今後人手不足が深刻化する工種」（最大3つまでの複数回答）	10
8. 「ベテラン技術者の引退でノウハウが失われる期間」（単一回答）	11
9. 「ベテラン技術者がもつ技術・ノウハウの現在の継承方法」（最大3つまでの複数回答）	11
10. 「ベテラン技術者がもつ技術・ノウハウの継承の現状」（単一回答）	12
10-1. 年代別	12
11. 「若手への、ベテラン技術者のノウハウの有効な伝え方」（最大3つまでの複数回答）	13
11-1. 年代別	13
12. 建設産業で誇りに思うこと（最大3つまでの複数回答）	14
13. 建設産業の深刻な課題（最大3つまでの複数回答）	15
13-1. 2023-2025年度推移（人手不足の深刻度）	16

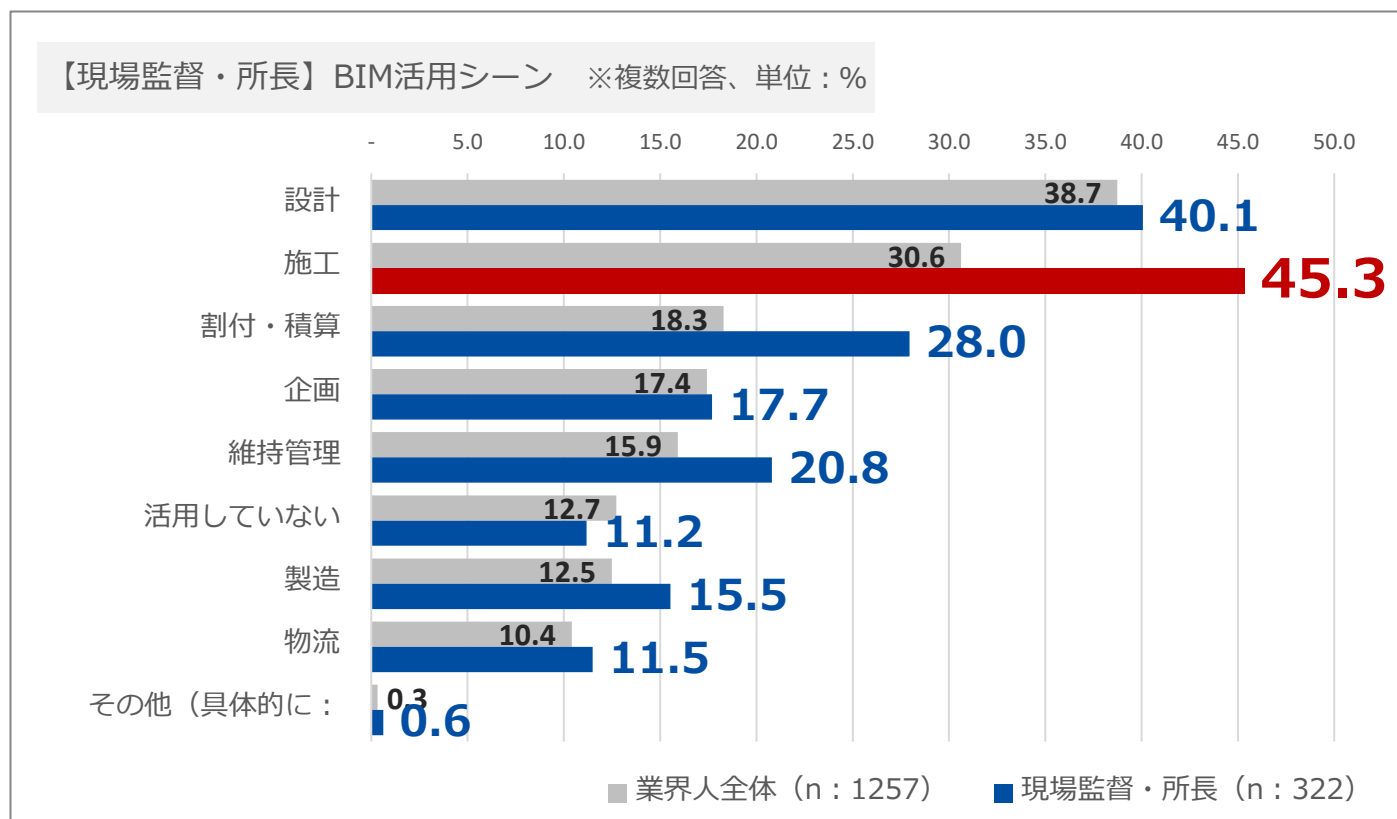
【結果要点】

- 【BIMの活用シーン】BIMの活用シーンは1位「施工（45.3%）」、2位「設計（40.1%）」、3位「割付・積算（28.0%）」で、前年に比べ施工でのBIM活用が29.1ポイント上昇していました。このことから、施工でのBIM活用がこの1年で拡大していると推測できます。特に、30代、40代、60代の現場監督・所長では、半数近くが「施工でBIMを活用」と回答しています。
- 【BIM活用に期待すること】BIM活用に期待することは、1位「省力化（業務の負担軽減・効率化）（39.9%）」、2位「発注者から技能工まで完成イメージがわかりやすい（33.9%）」、3位「施工段階での手戻りの減少（29.0%）」でした。1位「省力化（業務の負担軽減・効率化）（39.9%）」は、建設産業従事者1,257人の回答（32.5%）よりも割合が高いことから、時間外労働時間の上限規制の遵守と建設工事の工期厳守を両立すべく、現場監督・所長はBIM活用で省力化に期待する方が多いものと推測できます。

3. 【建設DXの現状】建設DXの現状は、現場監督・所長の約7割がデジタル化に着手、36.9%が効果を実感しているとの結果でした。建設DXの効果として「業務プロセス、組織やビジネスモデルも変わってきた」との回答は15.5%、20代では約半数にあたる46.7%との結果で、建設産業従事者1,257人の回答（10.7%）よりも割合が高いことがわかりました。
4. 【デジタル化未対応による仕事への不安】現場監督・所長のうち、「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安」がある方は66.8%で、建設産業従事者1,257人の回答（61.8%）よりも若干高い結果となりました。年代別に見てみると、20代で「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安」がある方は86.7%にも上っていました。この点、「3. 建設DXの現状」で、20代は他の年代よりも建設DXの効果を強く感じているとの結果が出ていることにも注目したいと考えます。
5. 【技術・ノウハウ承継】現場監督・所長が思う「ベテラン技術者がもつ技術・ノウハウの継承の現状」については、ベテラン技術者が持つノウハウの若手への伝え方は「口頭での指導が中心（46.3%）」が最多でしたが、「ベテラン技術者のノウハウを若手に十分伝えられていないのでは？」と心配に思っている割合が62.7%と建設産業従事者1,257人の回答（54.3%）よりも割合が高い結果となりました。
- 一方で、「若手への、ベテラン技術者のノウハウの有効な伝え方」は、1位「ベテランと若手が一緒にプロジェクトを進める（55.0%）」、2位「ノウハウ引継ぎの仕組み作り（39.8%）」、3位「BIMやデジタルツールを活用する（27.0%）」でしたが、3位「BIMやデジタルツールを活用する（27.0%）」は、20代で46.7%、30代で38.5%と回答割合が高いことに注目したいと思います。
6. 【建設産業の深刻な課題】現場監督・所長が思う「深刻な課題」は、1位「人手不足（69.9%）」、2位「熟練作業員の技術継承が進んでいない（27.2%）」、3位「働く環境（労働時間が長い・年間休日が少ない）（25.2%）」で、いずれも建設産業従事者1,257人の回答に比べて割合が高く、危機感が強いものと推測できます。特に、1位「人手不足（69.9%）」は、2023年調査で63.3%、2024年調査で65.1%と2年間で6.6ポイントと徐々に数値が上昇しています。

1. 「BIMの活用シーン」（複数回答）

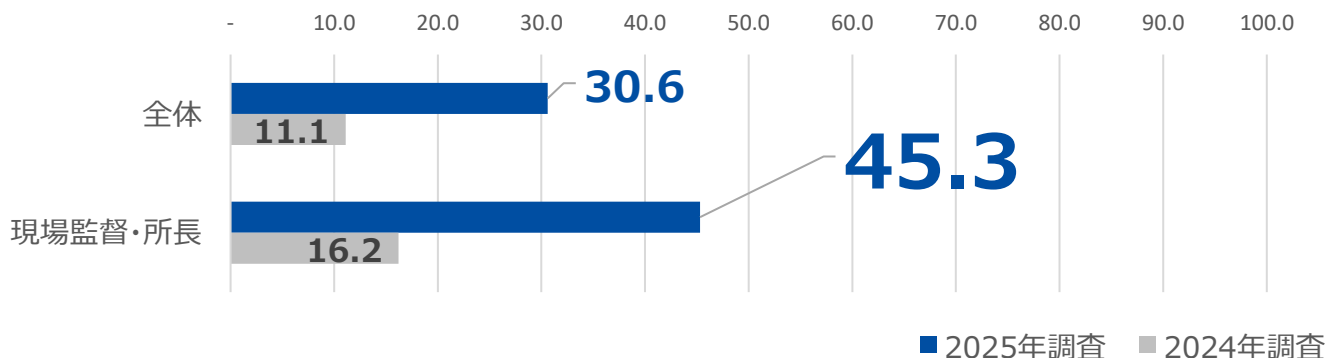
現場監督・所長322人に、BIMの活用シーンについて質問したところ（複数回答）、1位「施工（45.3%）」、2位「設計（40.1%）」、3位「割付・積算（28.0%）」でした。



1-1. 前年度比較（現場監督・所長の「施工でのBIM活用状況」）

施工でのBIM活用状況に特化して、2024年度調査結果と比べたところ、**施工でのBIM活用が29.1ポイント上昇**していました。このことから、現場監督・所長においては、**施工でのBIM活用がこの1年で拡大**していると推測できます。

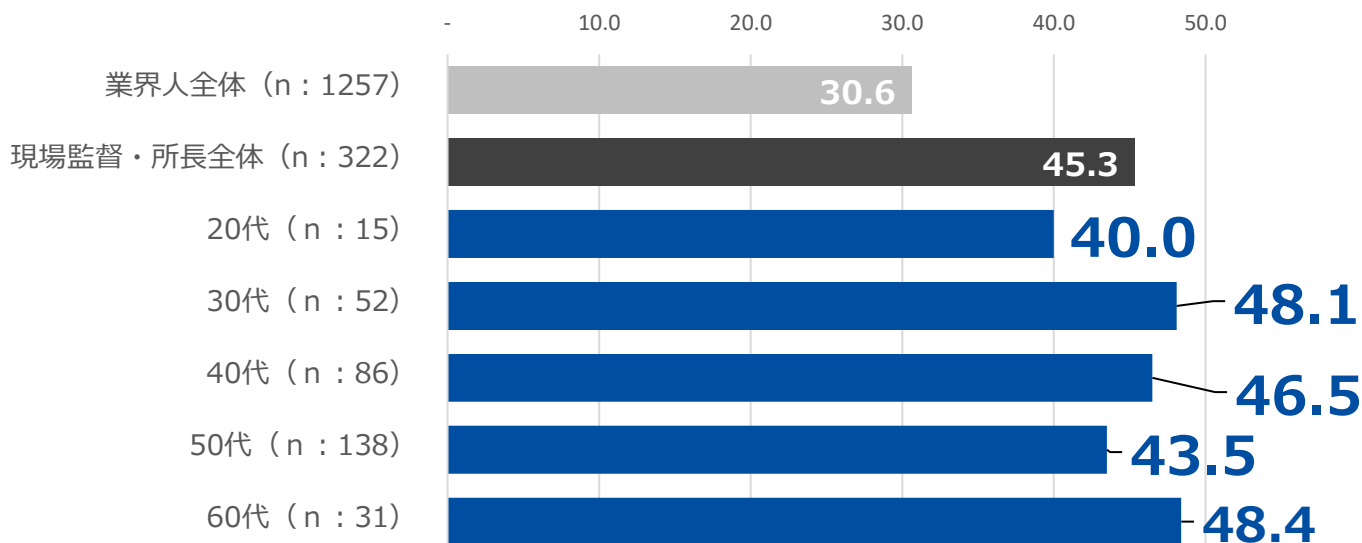
【前年比較】現場監督・所長_施工でのBIM活用状況 ※単位：％



1-2. 年代別

年代別に「建設工事を取り巻く現状の危機感」について結果を見ると、30代、40代、60代の現場監督・所長では、半数近くが「**施工でBIMを活用**」と回答しています。

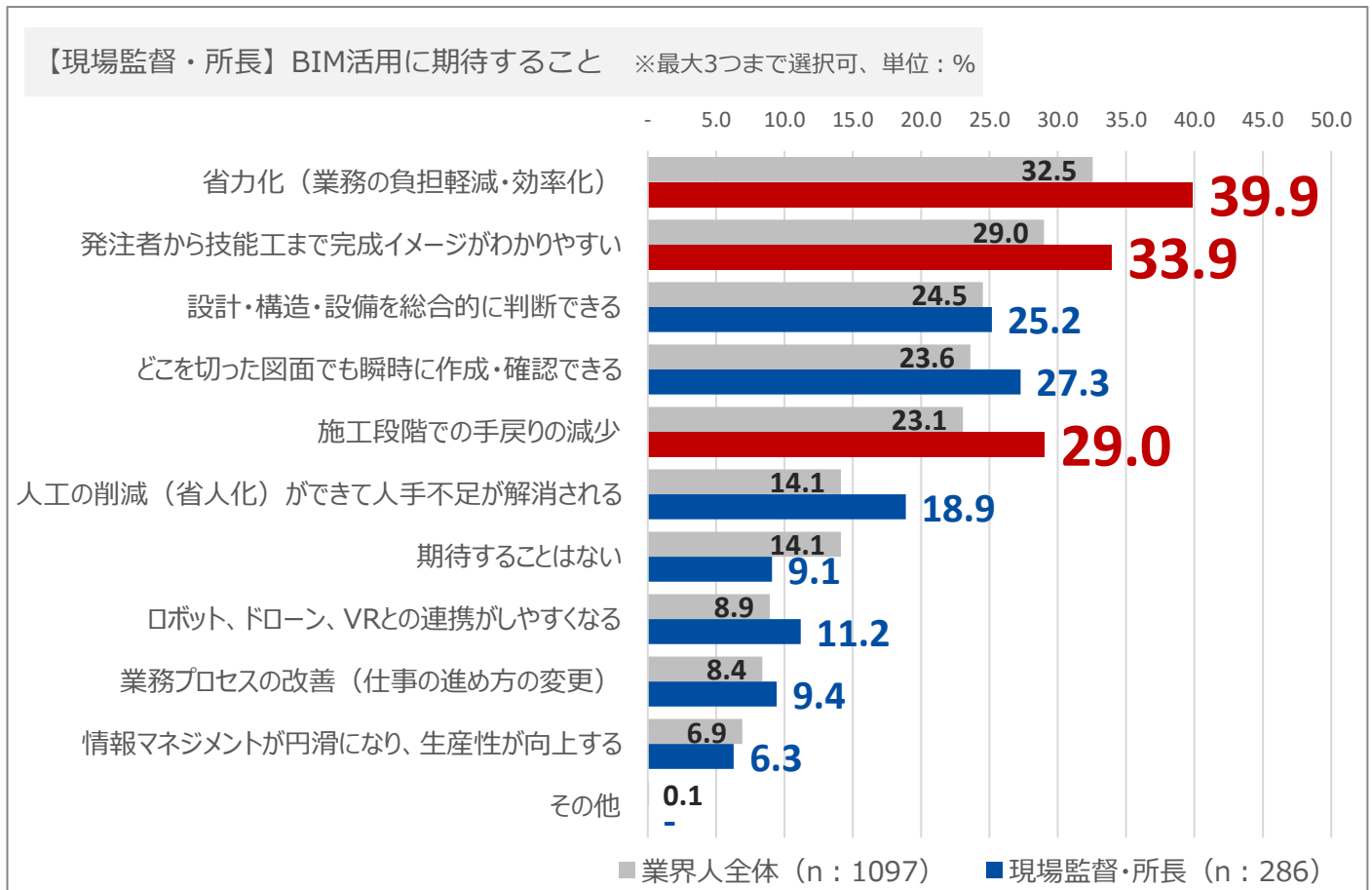
【年代別】現場監督・所長_施工でのBIM活用状況 ※単位：％



2. 「BIM活用に期待すること」（最大3つまでの複数回答）

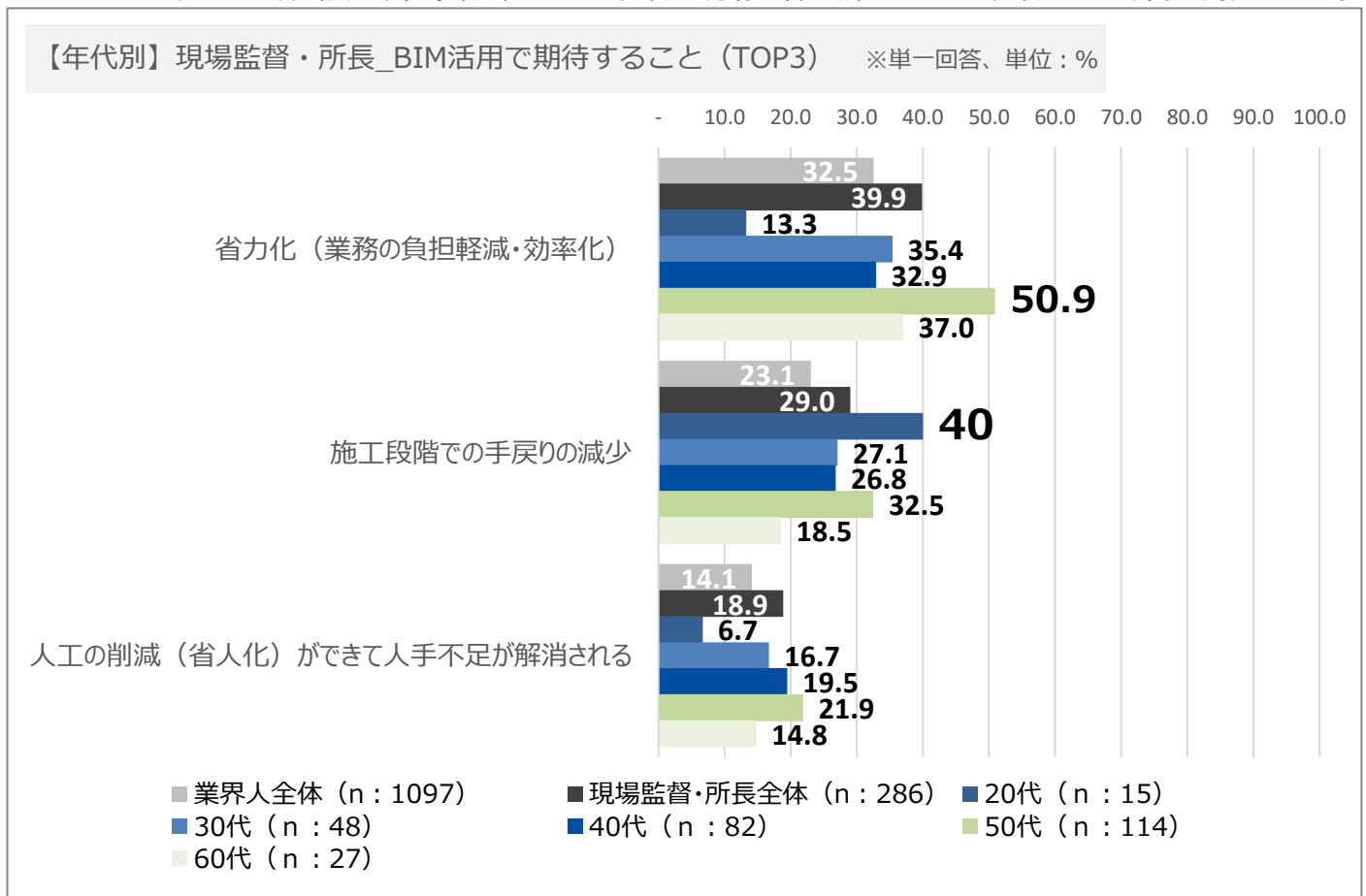
現場監督・所長 322 人のうち、業務で BIM を活用している 286 名に BIM 活用に期待することを質問したところ、1 位「**省力化（業務の負担軽減・効率化）**（39.9%）」、2 位「**発注者から技能工まで完成イメージがわかりやすい**（33.9%）」、3 位「**施工段階での手戻りの減少**（29.0%）」でした。

1 位「**省力化（業務の負担軽減・効率化）**（39.9%）」は、建設産業従事者 1,257 人の回答（32.5%）よりも割合が高いことから、**時間外労働時間の上限規制の遵守と建設工事の工期厳守を両立すべく、現場監督・所長は BIM 活用で省力化に期待する方が多いものと推測**できます。



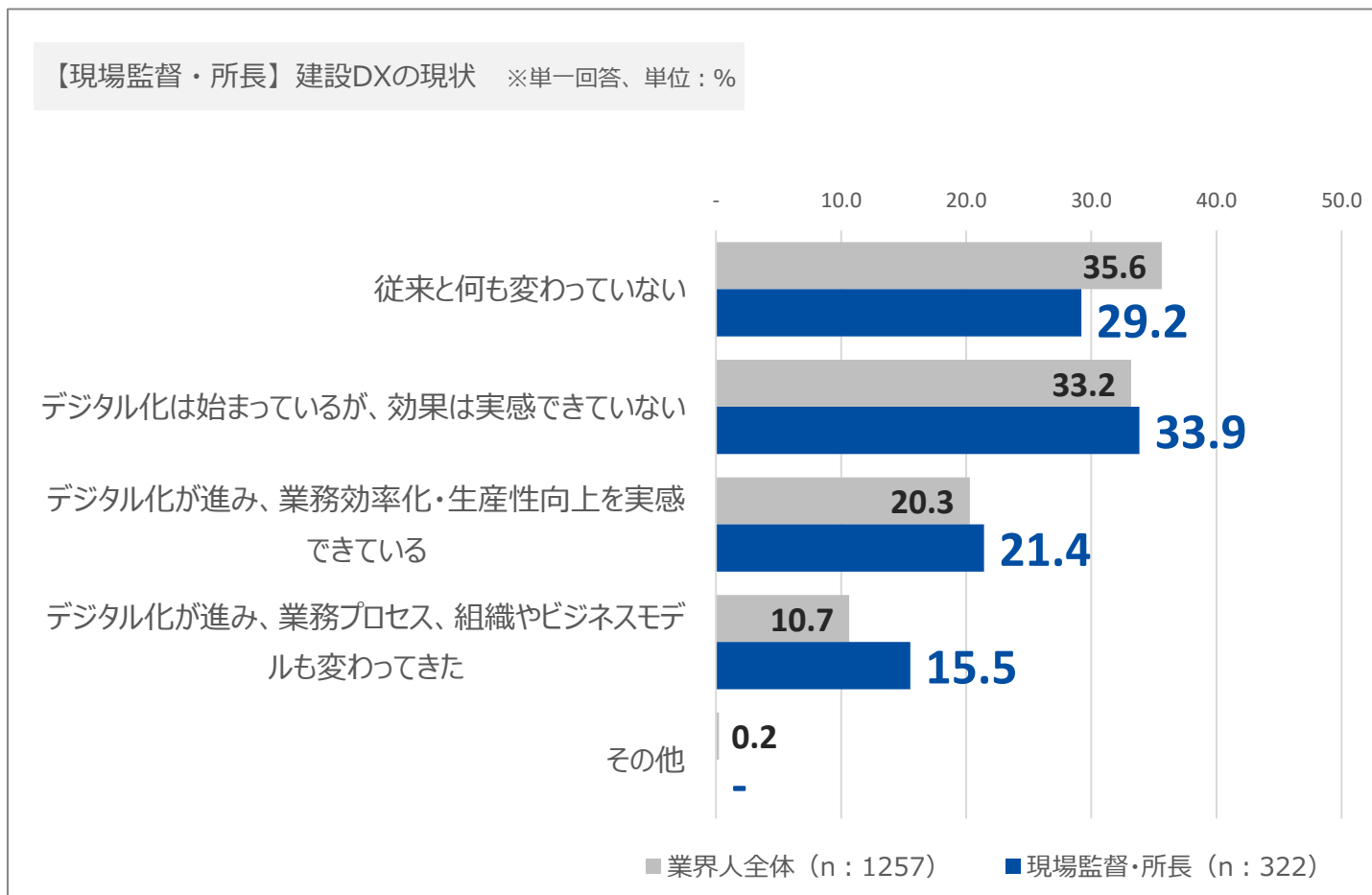
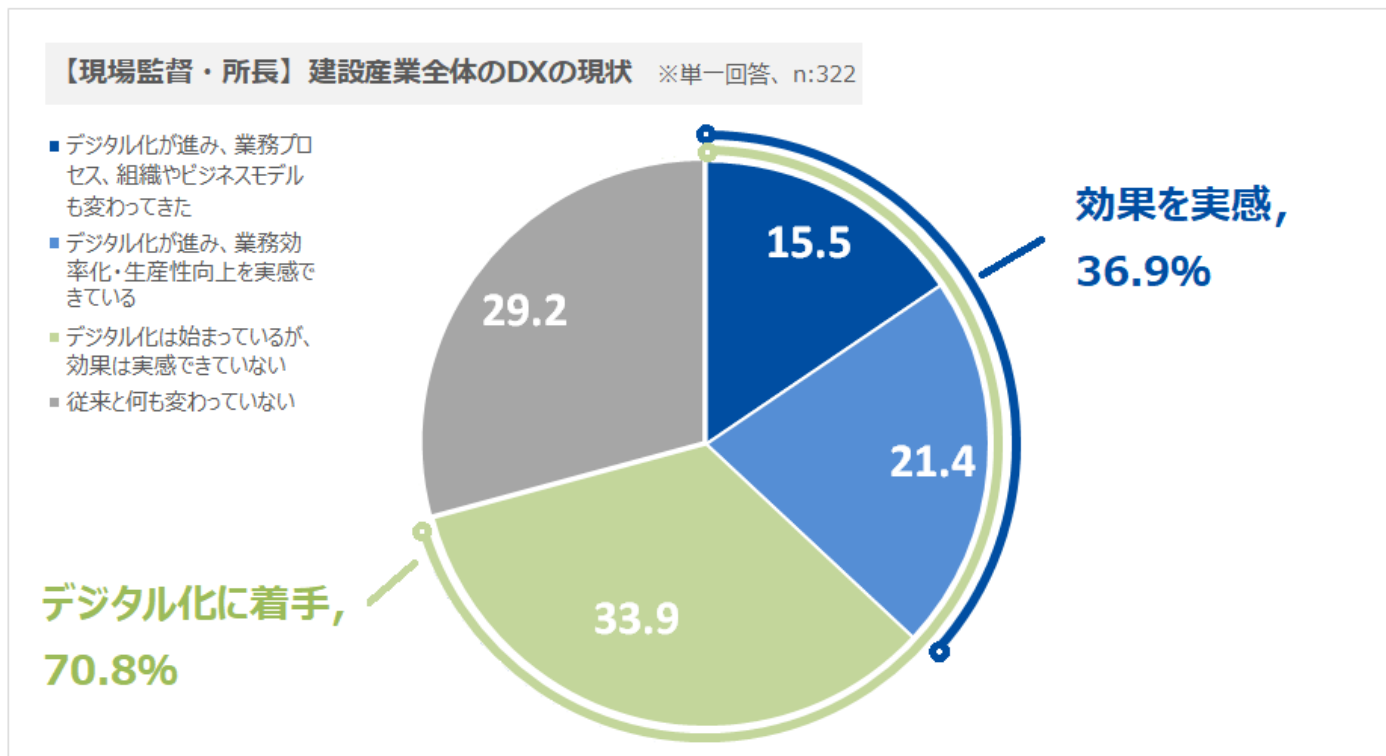
2-1. 年代別

現場監督・所長が「BIM活用に期待すること」の上位3つについて年代別に結果を見てみると、顕著だったのは「省力化（業務の負担軽減・効率化）」で50代の50.9%、「施工段階での手戻りの減少」で20代の40%で、ともに、建設産業従事者1,257人の回答や現場監督・所長286人の回答に比べ、高い割合でした。



3. 「建設DXの現状」（単一回答）

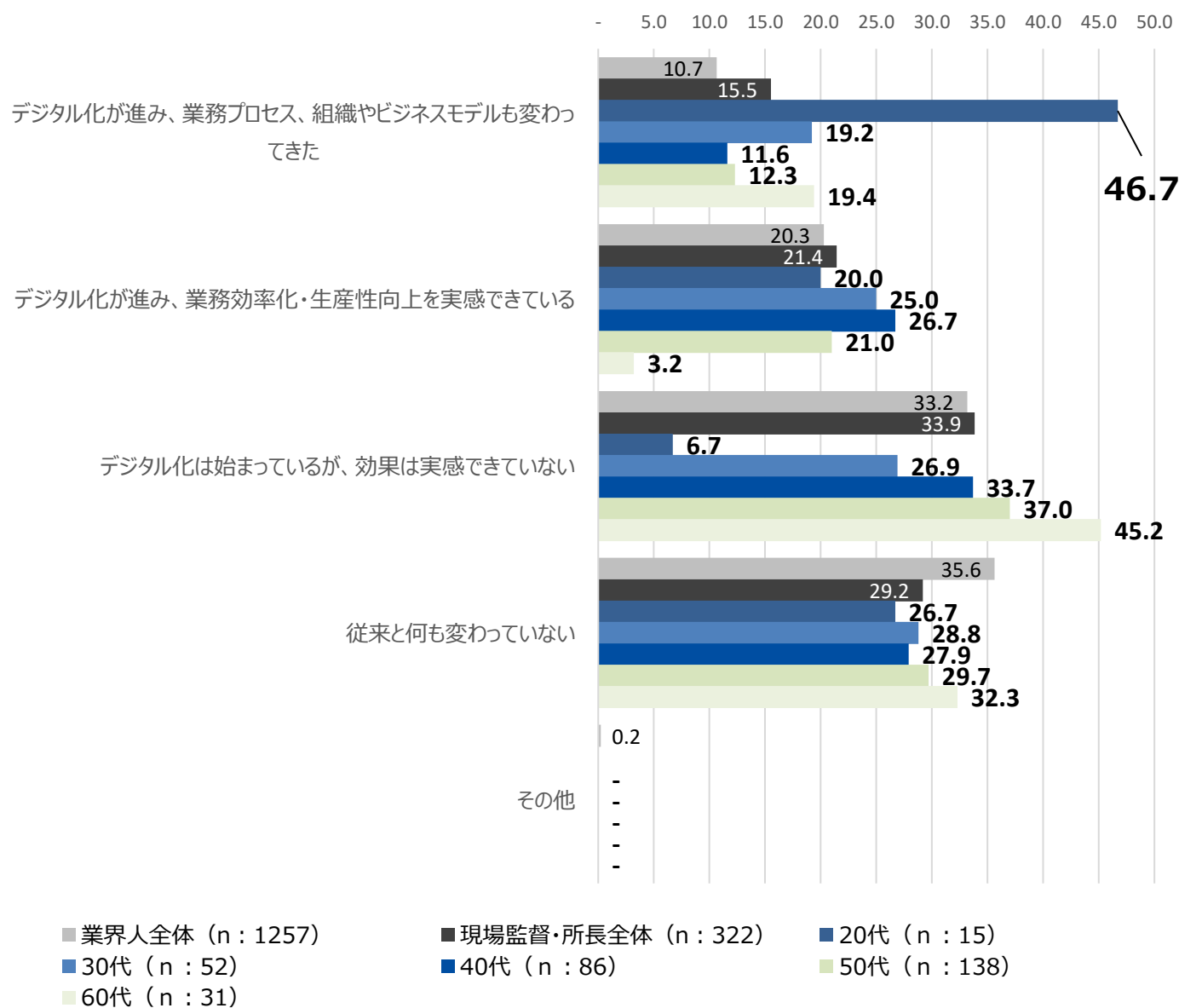
現場監督・所長 322 人の約 7 割がデジタル化に着手、36.9%が効果を実感しているとの結果でした。なかでも、建設DXの効果として「業務プロセス、組織やビジネスモデルも変わってきた」との回答は 15.5%で、建設産業従事者 1,257 人の回答（10.7%）よりも割合が高いことがわかりました。



3-1. 年代別

年代別に「建設DXの現状」の結果を見てみると、特徴的だったのは、20代で「業務プロセス、組織やビジネスモデルも変わってきた」との回答が約半数にあたる46.7%であったことです。

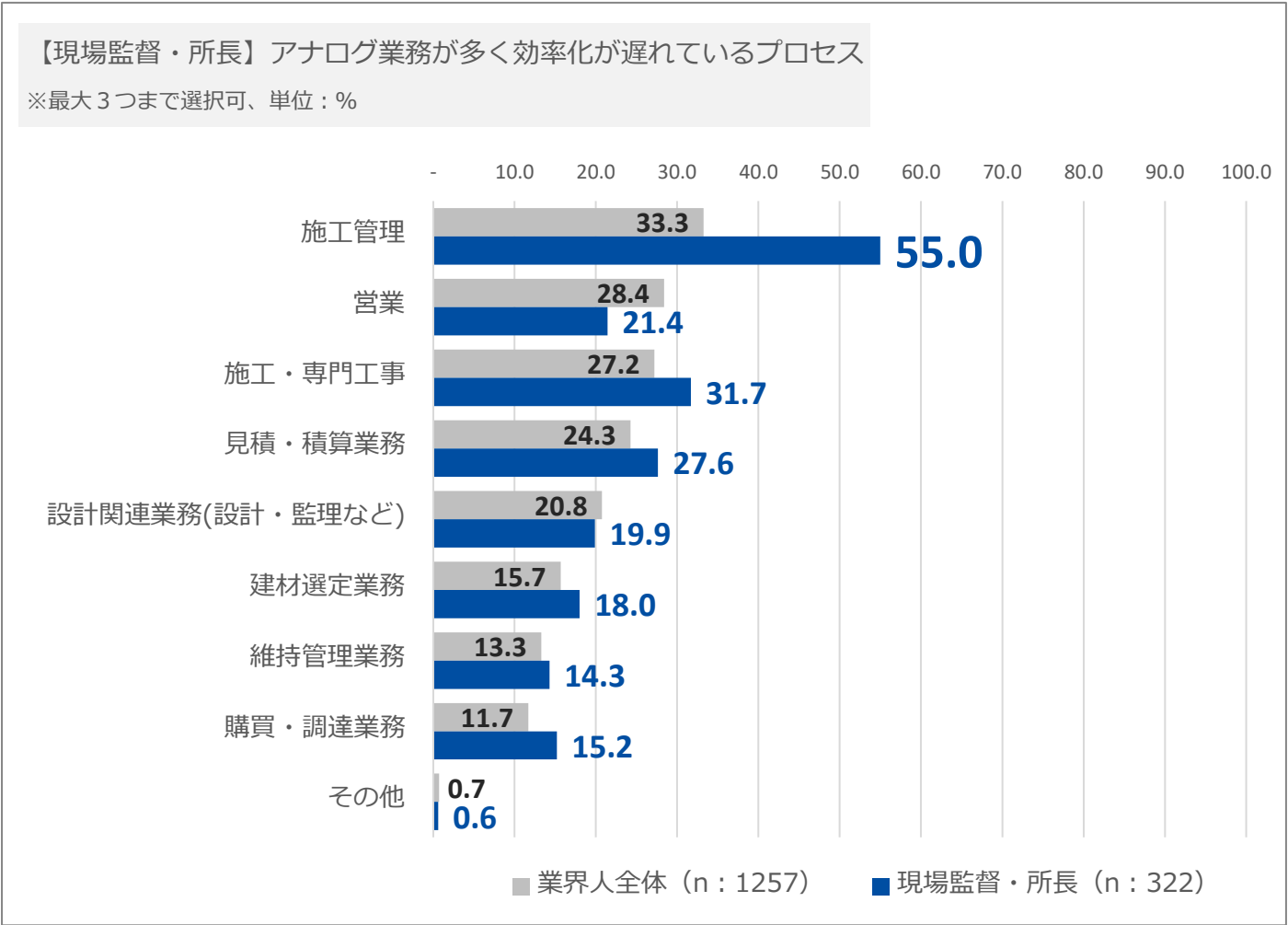
【年代別】現場監督・所長_建設DXの現状 ※単一回答、単位：%



4. 「アナログ業務が多く効率化が遅れているプロセス」（最大3つまでの複数回答）

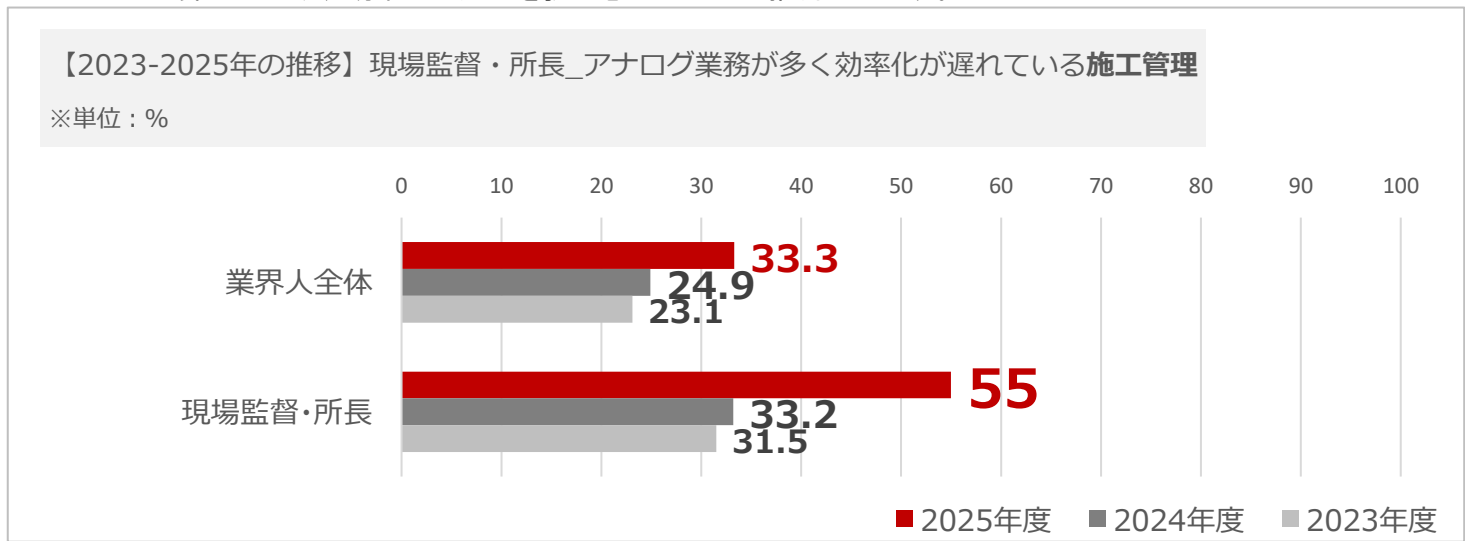
現場監督・所長 322 人に「アナログ業務が多く、生産性向上や業務効率化が遅れていると思う業務プロセスはどれですか？（最大3つまで選択可）」と質問したところ、1位「施工管理（55.0%）」、2位「施工・専門工事（31.7%）」、3位「見積・積算業務（27.6%）」との結果で、建設産業従事者 1,257 人の回答に比べ、上位3項目が異なり、かつ、「施工管理」「施工・専門工事」の回答割合がともに高い点が特徴的でした。

「アナログ業務が多く効率化が遅れているプロセス」		
	現場監督・所長 322 人	建設産業従事者 1,257 人
1 位	施工管理 (55.0%)	施工管理 (33.3%)
2 位	施工・専門工事 (31.7%)	営業 (28.4%)
3 位	見積・積算業務 (27.6%)	施工・専門工事 (27.2%)



4-1. 2023-2025 年度推移（アナログ業務が多く効率化が遅れているのは施工管理）

現場監督・所長 322 人が選ぶ、アナログ業務が多く効率化が遅れているプロセスの 1 位「施工管理」について、2023 年度調査からの推移を見てみると、現場監督・所長 322 人は 2023 年度調査から約 20 ポイントも上昇しており、効率化の遅れを強く感じていると推測できます。

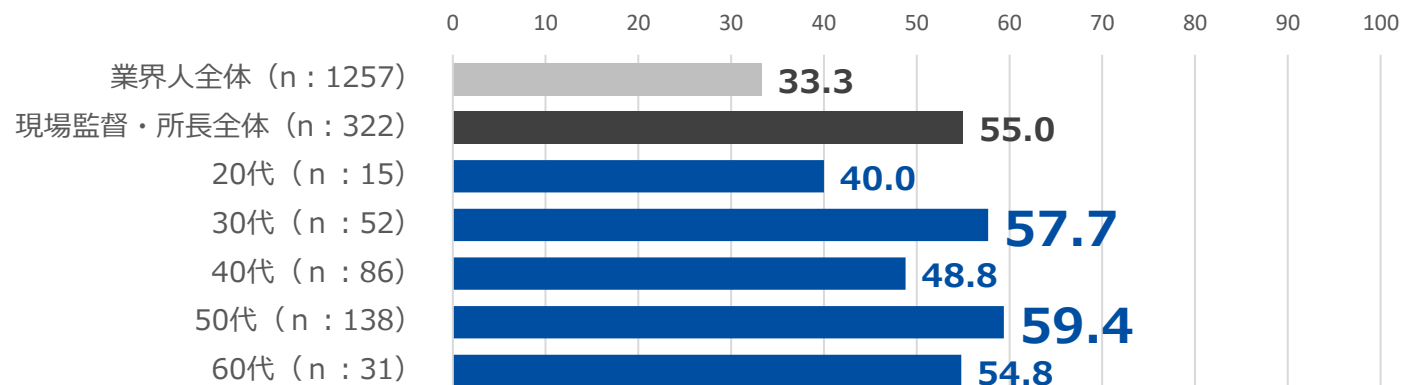


4-2. 年代別（アナログ業務が多く効率化が遅れているのは施工管理）

現場監督・所長 322 人が選ぶ、アナログ業務が多く効率化が遅れているプロセスの 1 位「施工管理」について、年代別に見てみると 30 代で 57.7%、50 代で 59.4%とさらに高い割合となっていました。

【年代別】現場監督・所長_アナログ業務が多く効率化が遅れているプロセスは**施工管理**

※単位：％

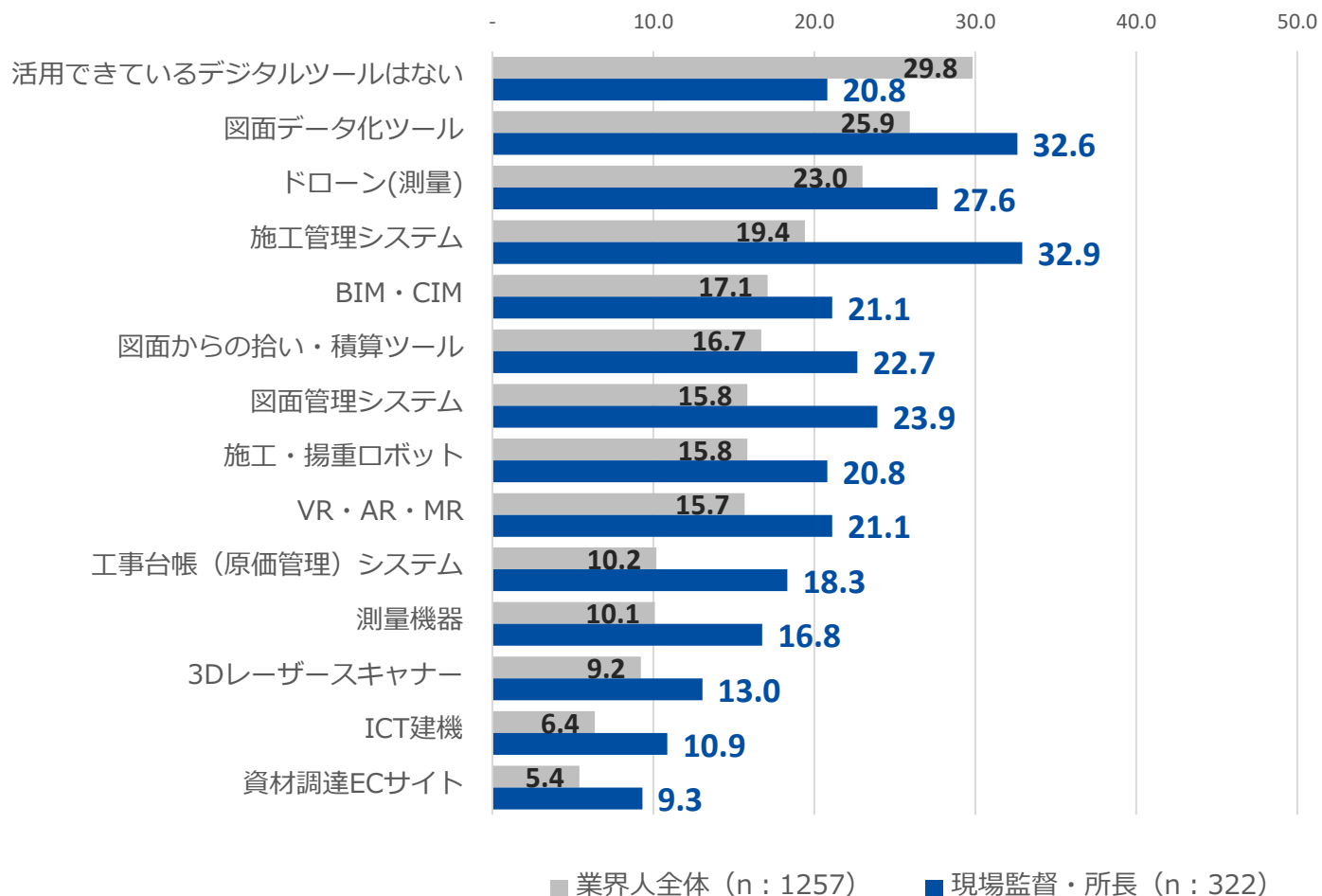


5. 「省人化・省力化を目的に活用できているデジタルツール」（複数回答）

現場監督・所長 322 人に、「省人化（生産性向上）や省力化（業務効率化）を目的に、活用できているデジタルツールを教えてください（複数回答可）」と質問したところ、1 位「施工管理システム（32.9％）」、2 位「図面データ化ツール（32.6％）」、3 位「ドローン（測量）（27.6％）」でした。なお、官民で活用を進めようとしている「BIM/CIM」は 21.1％で 6 位でした、

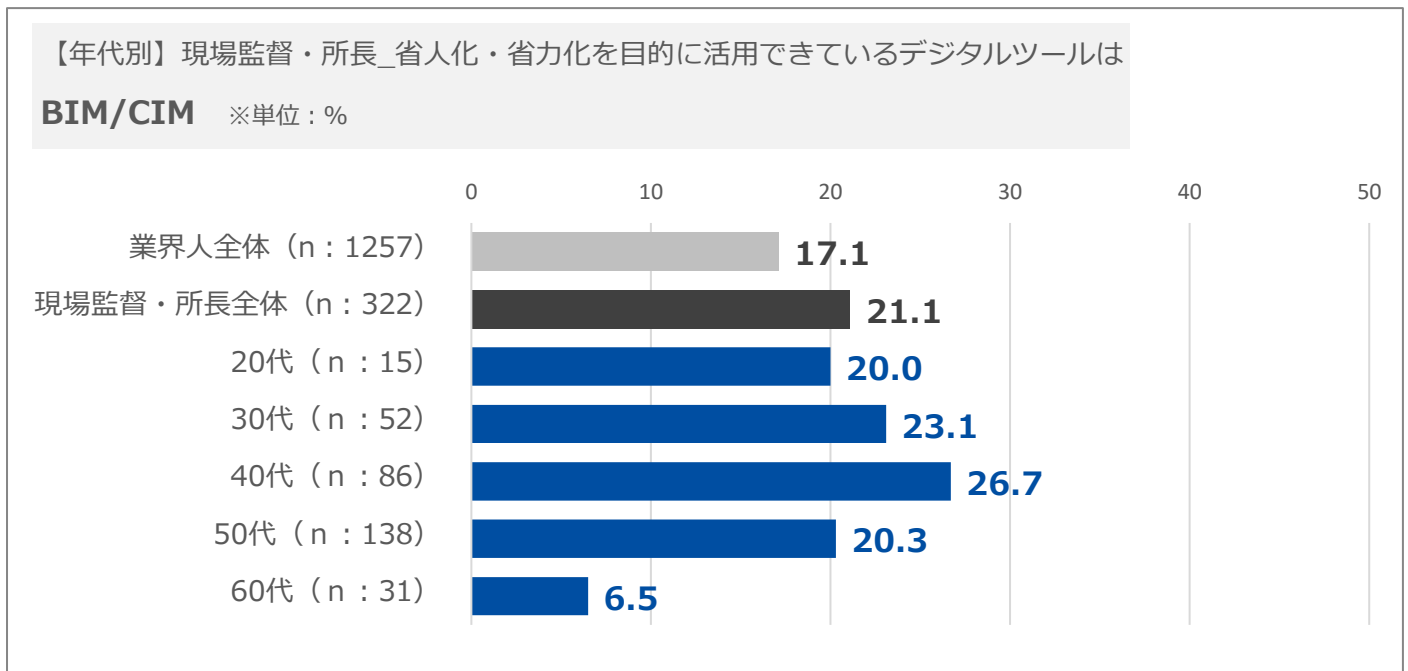
【現場監督・所長】省人化・省力化を目的に活用できているデジタルツール

※複数回答、単位：％



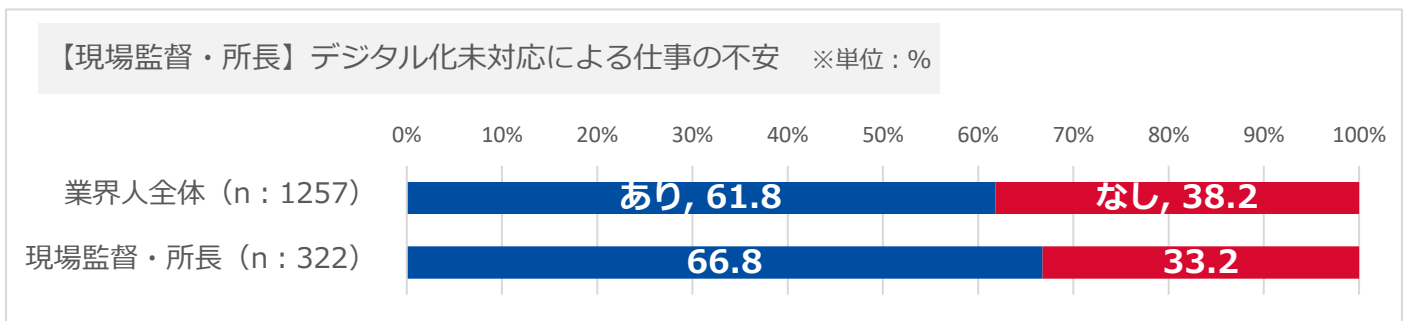
5-1. 年代別（省人化・省力化を目的に活用できているデジタルツールはBIM/CIM）

年代別に、BIM/CIM を「省人化・省力化を目的に活用できているデジタルツール」に選んだ現場監督・所長の割合を見てみると、40代で最多の26.7%、次いで30代の23.1%と結果でした。



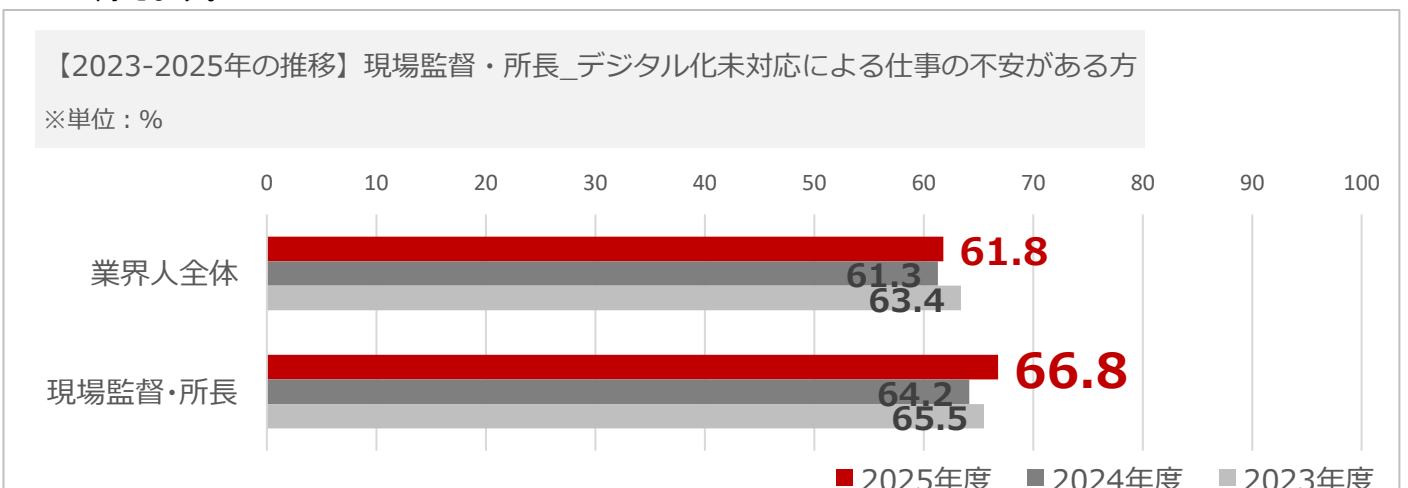
6. 「デジタル化未対応による仕事への不安」（単一回答）

現場監督・所長322人に「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのではないかと不安はありますか？」と質問したところ、「不安がある」との回答は66.8%で、建設産業従事者1,257人の回答（61.8%）よりも若干高い結果となりました。



6-1. 2023-2025 年度推移（「デジタル化未対応による仕事への不安がある」現場監督・所長の割合）

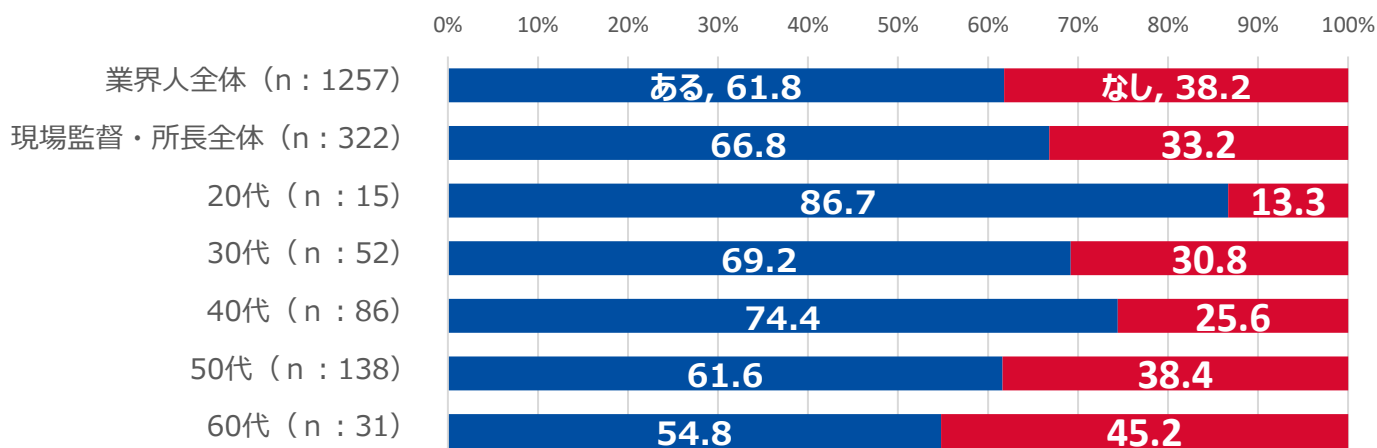
「デジタル化未対応による仕事への不安がある」現場監督・所長の割合を、2023 年度調査からの推移で見ると、建設産業従事者1,257 人の回答割合より若干高いものの、2 年間での推移は同じ傾向にあると伺えます。



6-2. 年代別

年代別に「デジタル化未対応による仕事への不安がある」現場監督・所長の割合を見てみると、20代で「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安」がある方は86.7%にも上っていました。この点、「3. 建設DXの現状」で、20代は他の年代よりも建設DXの効果を強く感じているとの結果が出ていることにも注目したいと考えます。

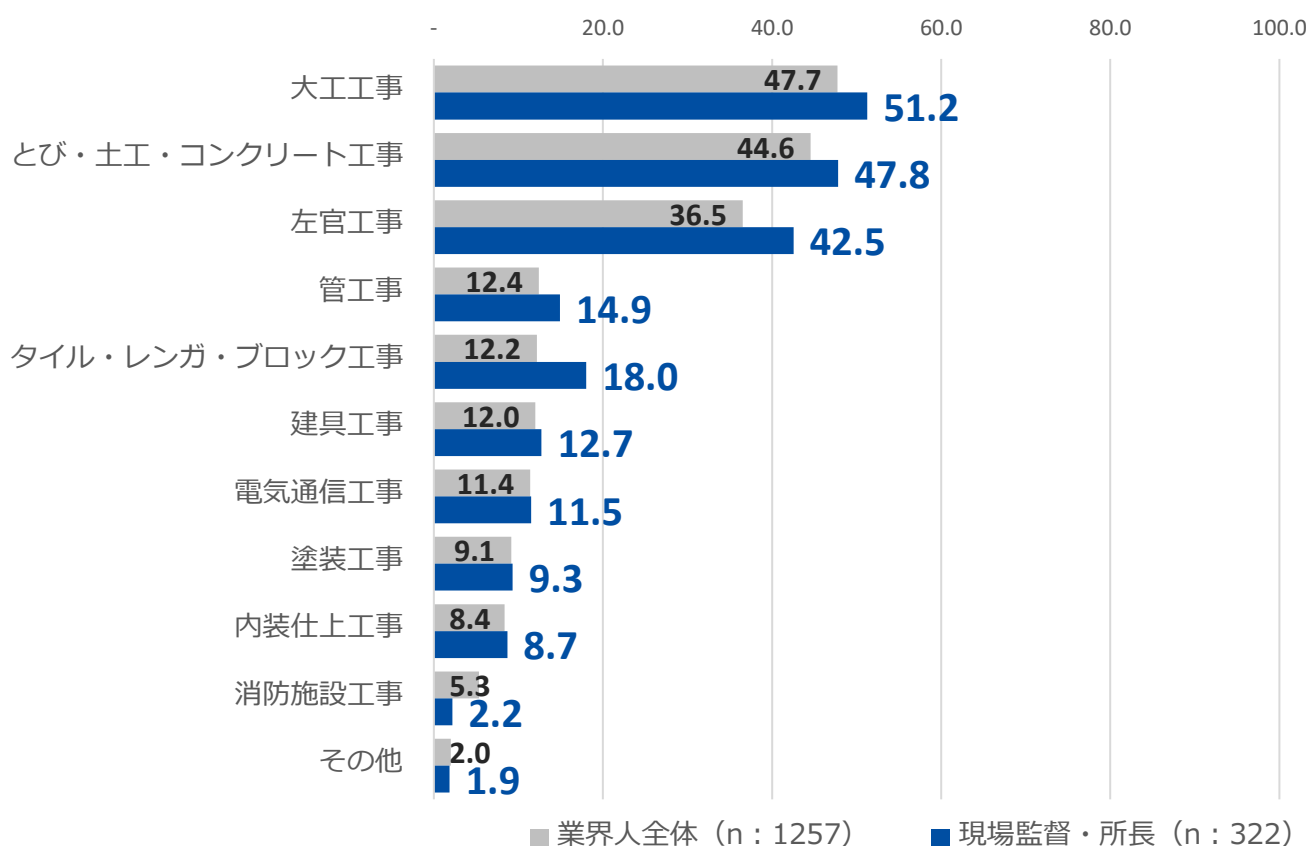
【年代別】現場監督・所長_デジタル化未対応による仕事の不安 ※単位：%



7. 「今後人手不足が深刻化する工種」（最大3つまでの複数回答）

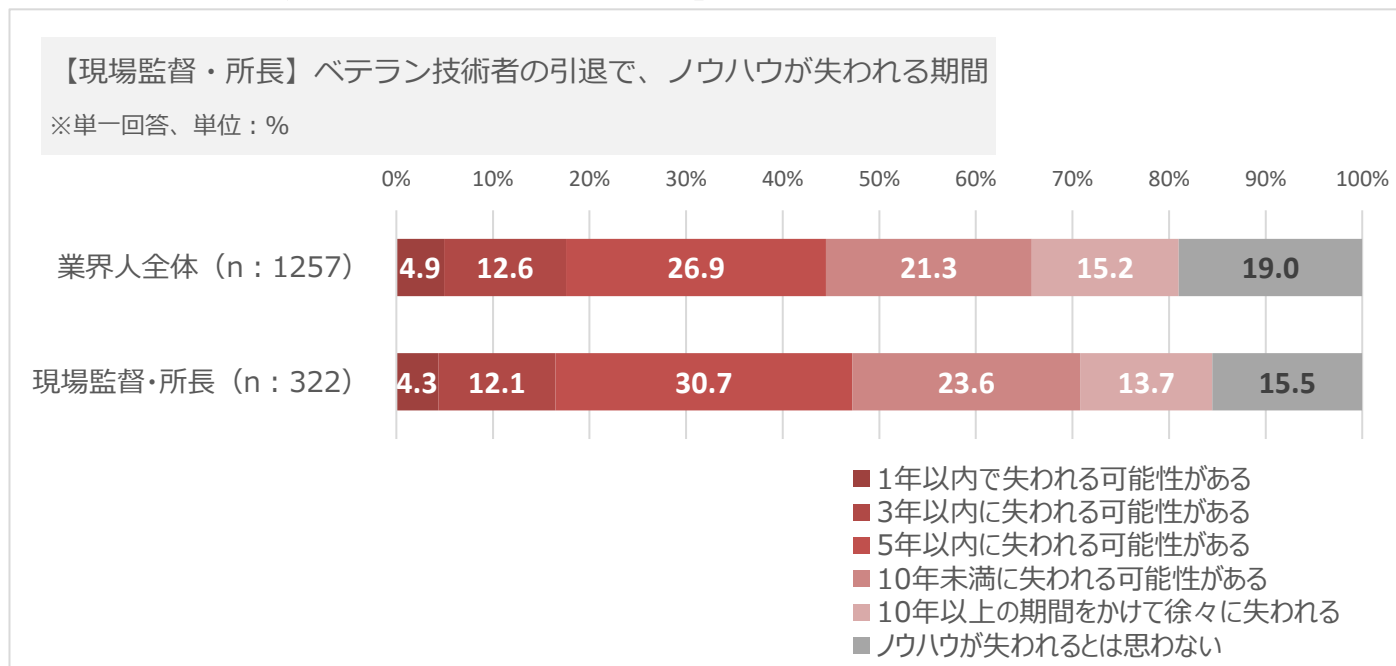
現場監督・所長 322 人に、「2025 年問題による 75 歳以上の大量退職が迫る中、今後人手不足が深刻化する工種」と質問したところ、1 位「大工工事 (51.2%)」、2 位「とび・土工・コンクリート工事 (47.8%)」、3 位「左官工事 (42.5%)」との結果でした。

【現場監督・所長】今後、人手不足が深刻化する工種 ※最大3つまで選択可、単位：%



8. 「ベテラン技術者の引退でノウハウが失われる期間」（単一回答）

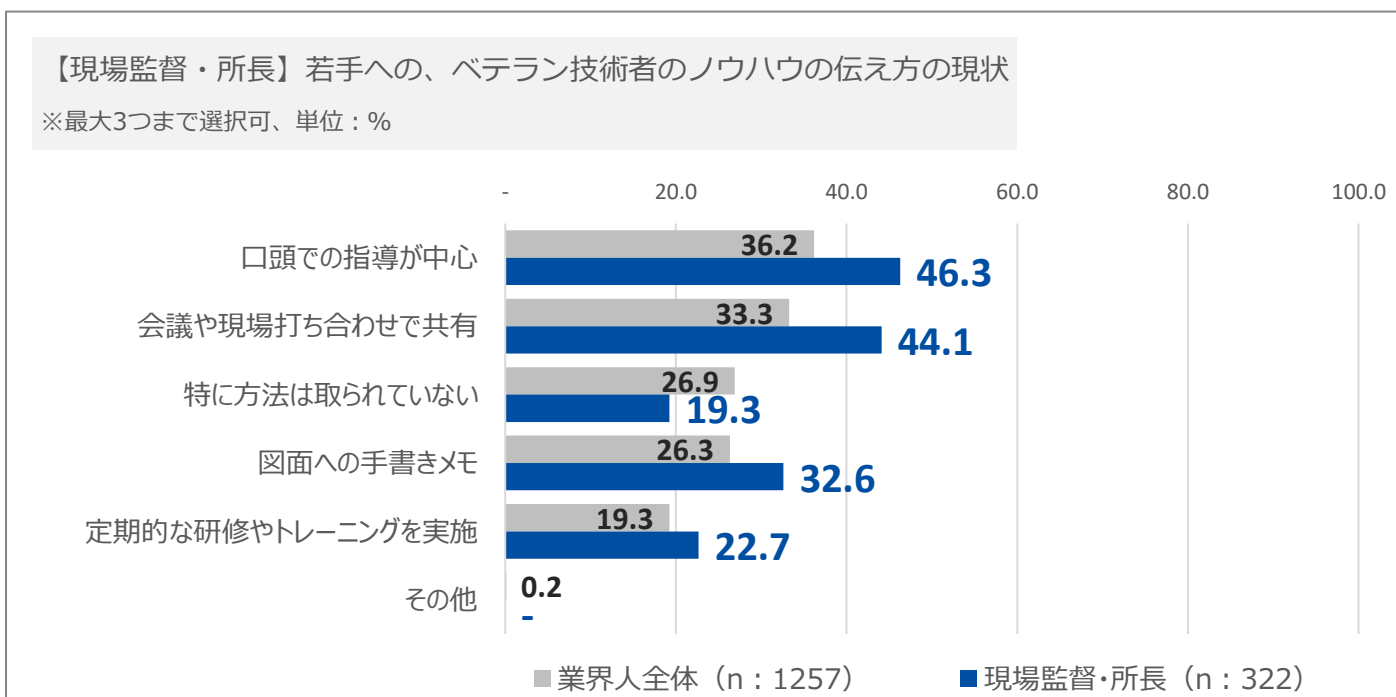
現場監督・所長 322 人に、「ベテラン技術者の引退に伴い、現場の段取りや関係会社との情報伝達、現場連携といった仕事のノウハウがどのくらいの期間で失われる可能性があると思いますか？」と質問したところ、**最多は「5 年以内に失われる可能性がある（30.7%）」**でした。



9. 「ベテラン技術者がもつ技術・ノウハウの現在の継承方法」（最大3つまでの複数回答）

現場監督・所長 322 人に、「あなたの現場では、ベテラン技術者が持つ仕事の段取りや関係会社との情報伝達、連携に関するノウハウを若手にどのように伝えていますか？（最大3つまで選択可）」と質問したところ、次表の通りとなりました。

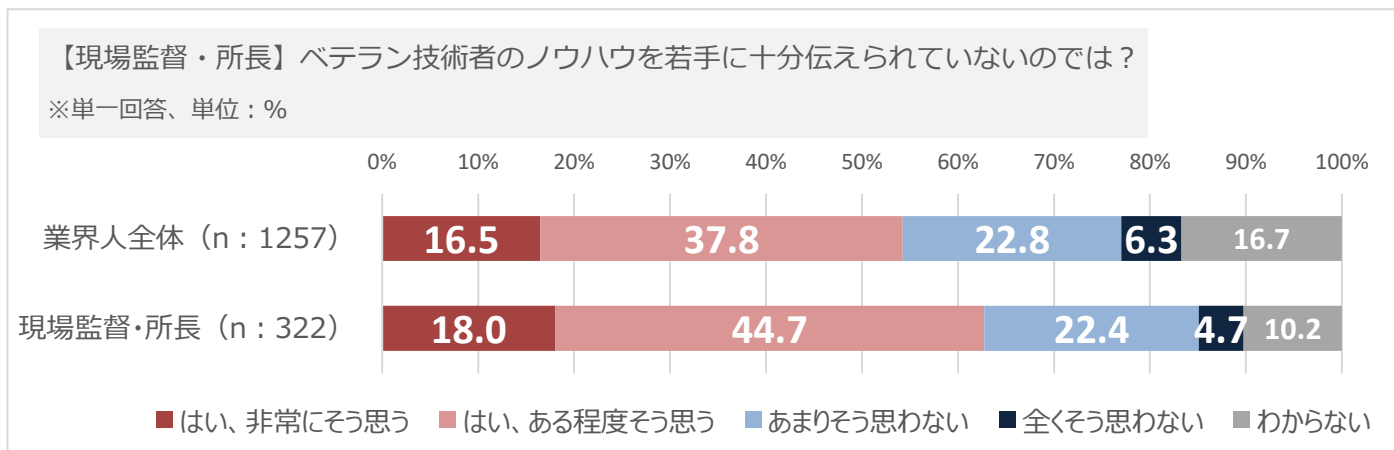
「ベテラン技術者がもつ技術・ノウハウの現在の継承方法」		
	現場監督・所長 322 人	建設産業従事者 1,257 人
1 位	口頭での指導が中心（46.3%）	口頭での指導が中心（36.2%）
2 位	会議や現場打合せで共有（44.1%）	会議や現場打合せで共有（33.3%）
3 位	図面への手書きメモ（32.6%）	特に方法は取られていない（26.9%）



なお、建設産業従事者1,257人の回答で3位の「特に方法は取られていない」は、現場監督・所長では最下位であり、また現場監督・所長では「特に方法は取られていない」以外の項目の回答割合が高いことから、現場監督・所長においては「ベテラン技術者がもつ技術・ノウハウを何かしらの方法で継承していこう」との意向が強いと推測できます。

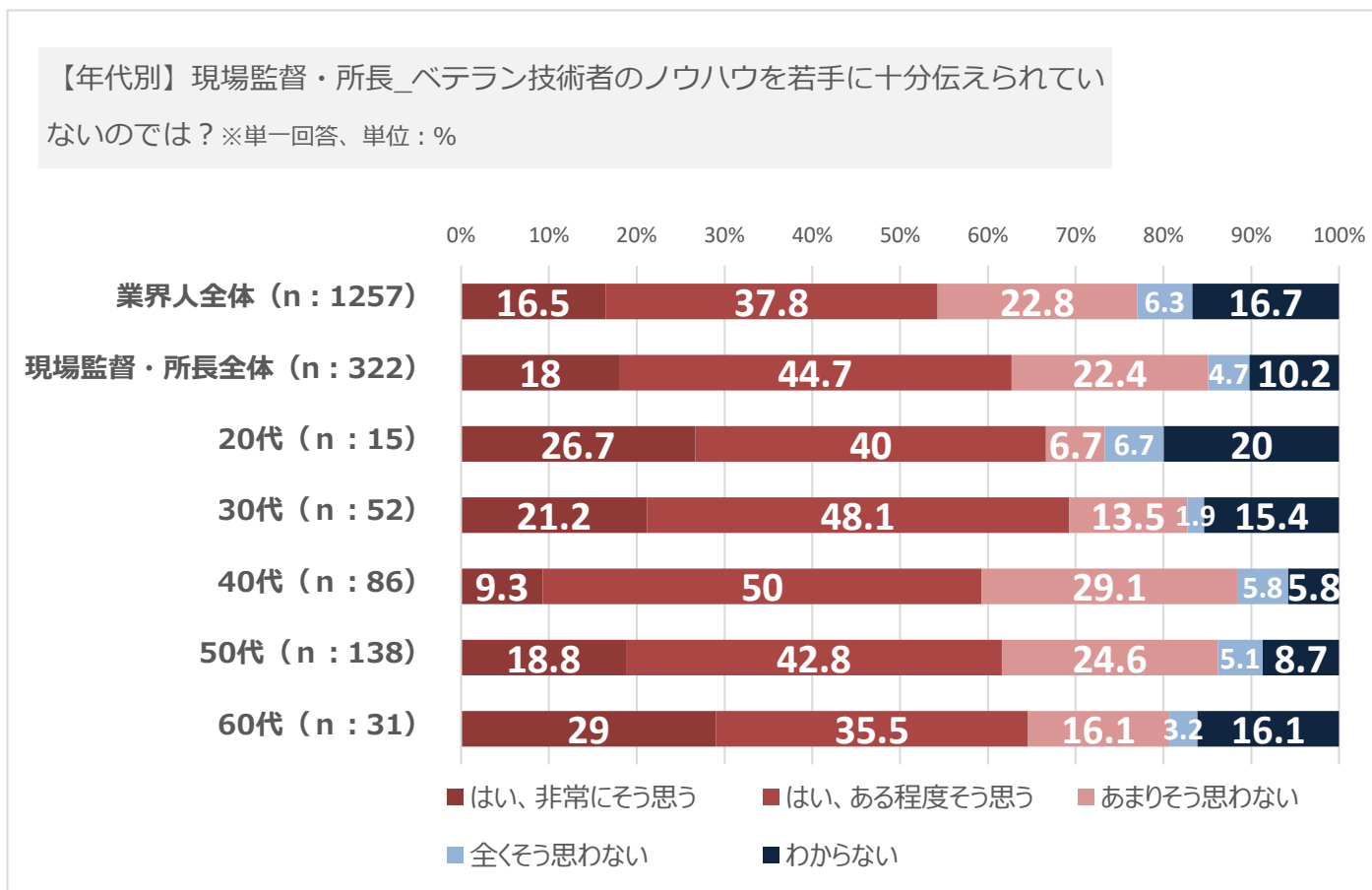
10. 「ベテラン技術者がもつ技術・ノウハウの継承の現状」（単一回答）

現場監督・所長322人に、「ベテラン技術者の持つ仕事の段取りや関係会社との伝達・共有・連携に関するノウハウが若手に十分伝えられていないと感じることはありますか？」と質問したところ、継承が不十分だと思うかについては「非常にそう思う」（18.0%）、「ある程度そう思う」（44.7%）を合わせた62.7%が「若手層に十分に伝えられていない」と実感していることがわかりました。



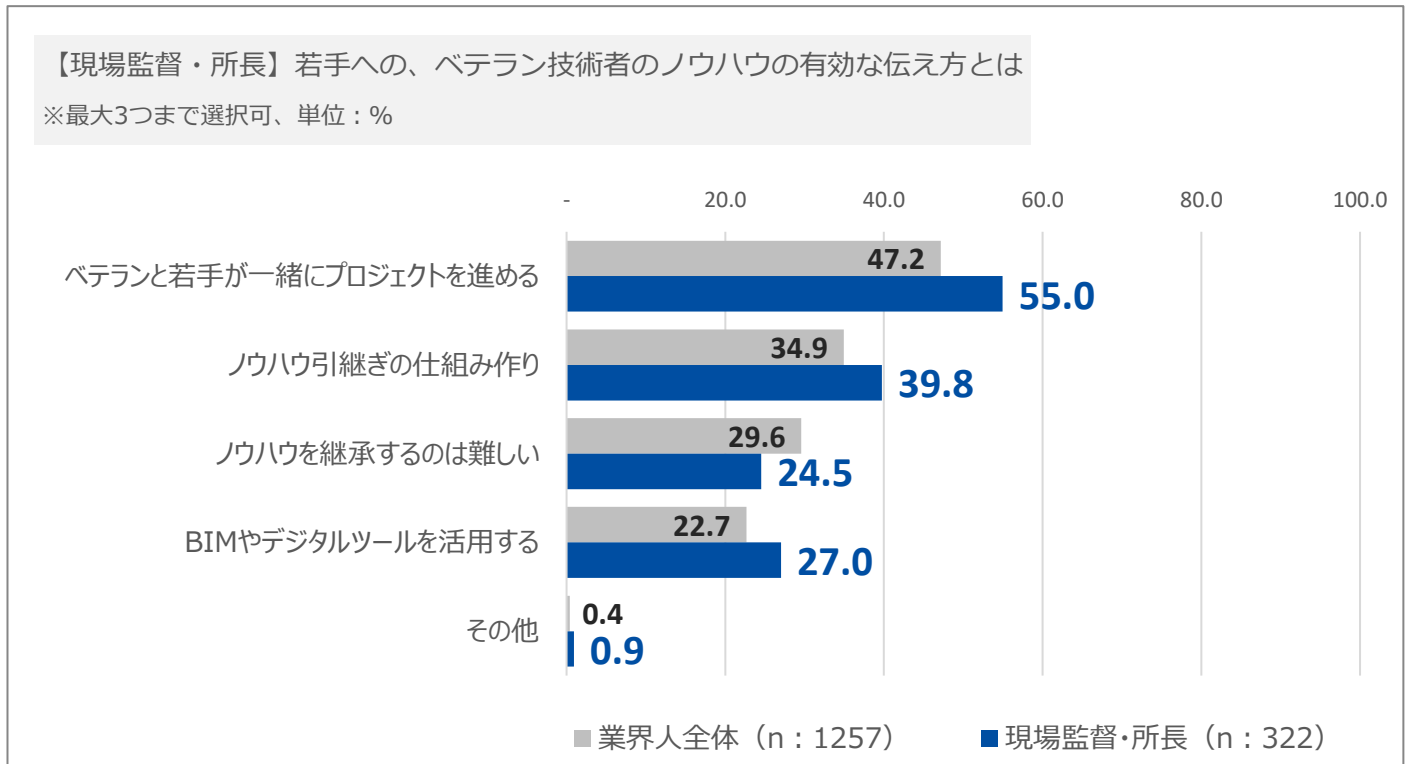
10-1. 年代別

年代別に「ベテラン技術者がもつ技術・ノウハウの継承の現状」についてみると、20代と30代で継承が不十分だと感じている方の割合が多いことがわかります（「非常にそう思う」または「ある程度そう思う」の回答割合をご参照）



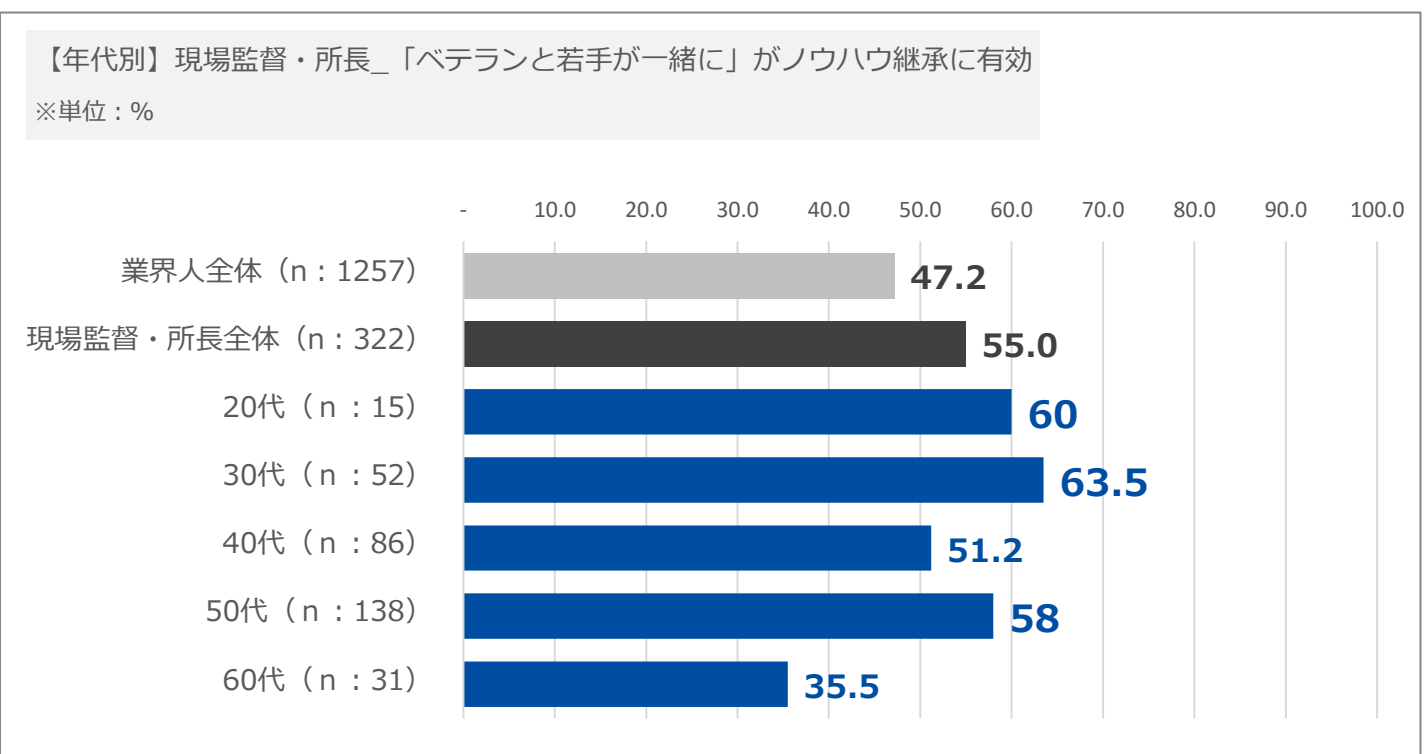
11. 「若手への、ベテラン技術者のノウハウの有効な伝え方」（最大3つまでの複数回答）

現場監督・所長 322 人に、「どのようにすれば、ベテラン技術者の持つ仕事の段取りや関係会社との伝達・共有・連携に関するノウハウが、若手に伝えられるようになると思いますか？（最大3つまで選択可）」と質問したところ、1位「ベテランと若手が一緒にプロジェクトを進める（55.0%）」、2位「ノウハウ引継ぎの仕組み作り（39.8%）」、3位「BIMやデジタルツールを活用する（27.0%）」でした。



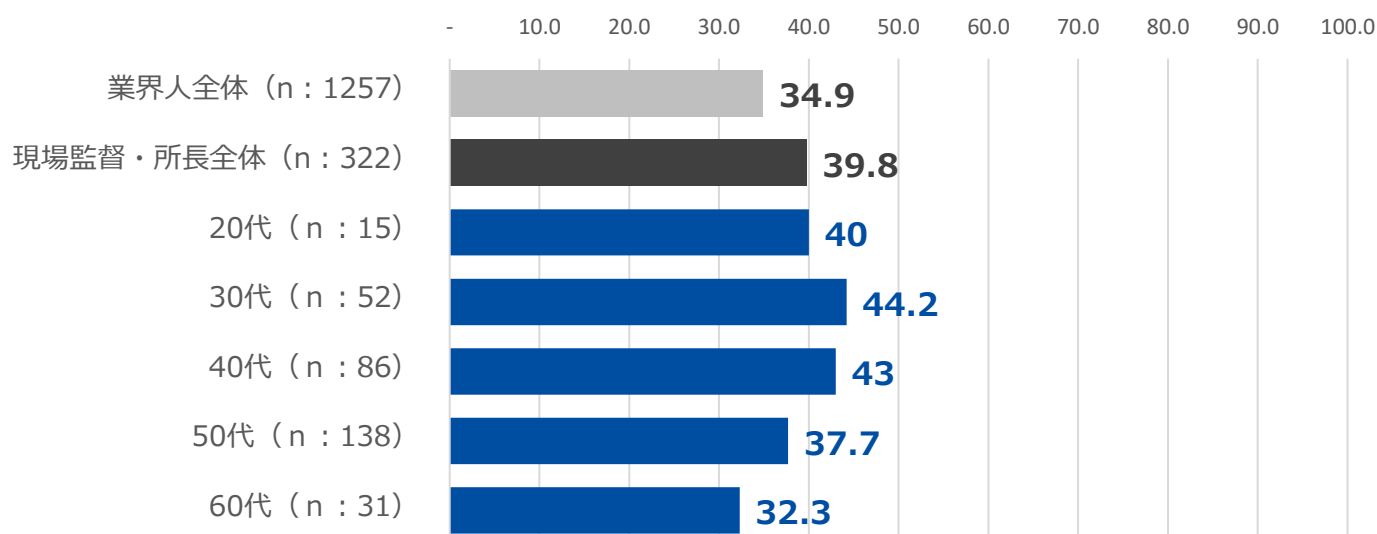
11-1. 年代別

1～3位の各項目を年代別に結果をみると、1位「ベテランと若手が一緒にプロジェクトを進める」は30代で63.5%、20代で60%と回答割合が高いことから、若手ほど「ベテランとともに働くこと」でノウハウ継承が有効に進むと期待していると言えます。



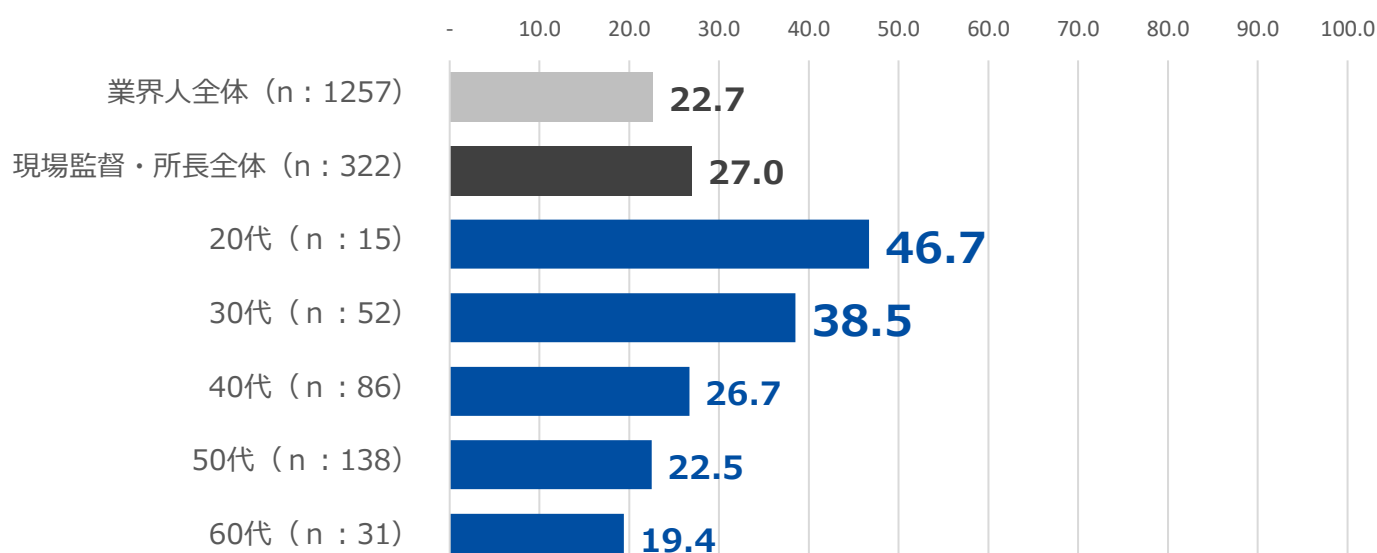
2 位「ノウハウ引継ぎの仕組み作り」については、年代によるばらつきが少ないことがわかります

【年代別】現場監督・所長_「継承の仕組みづくり」がノウハウ継承に有効 ※単位：%



3 位「BIM やデジタルツールを活用する」でも、20 代で 46.7%、30 代で 38.5%と回答割合が高いことから、若手ほど「BIM やデジタルツールを活用する」ことで「ベテラン技術者がもつ技術・ノウハウ」のデジタル化と若手への継承が進むことを期待しているのではないかと推測できます。

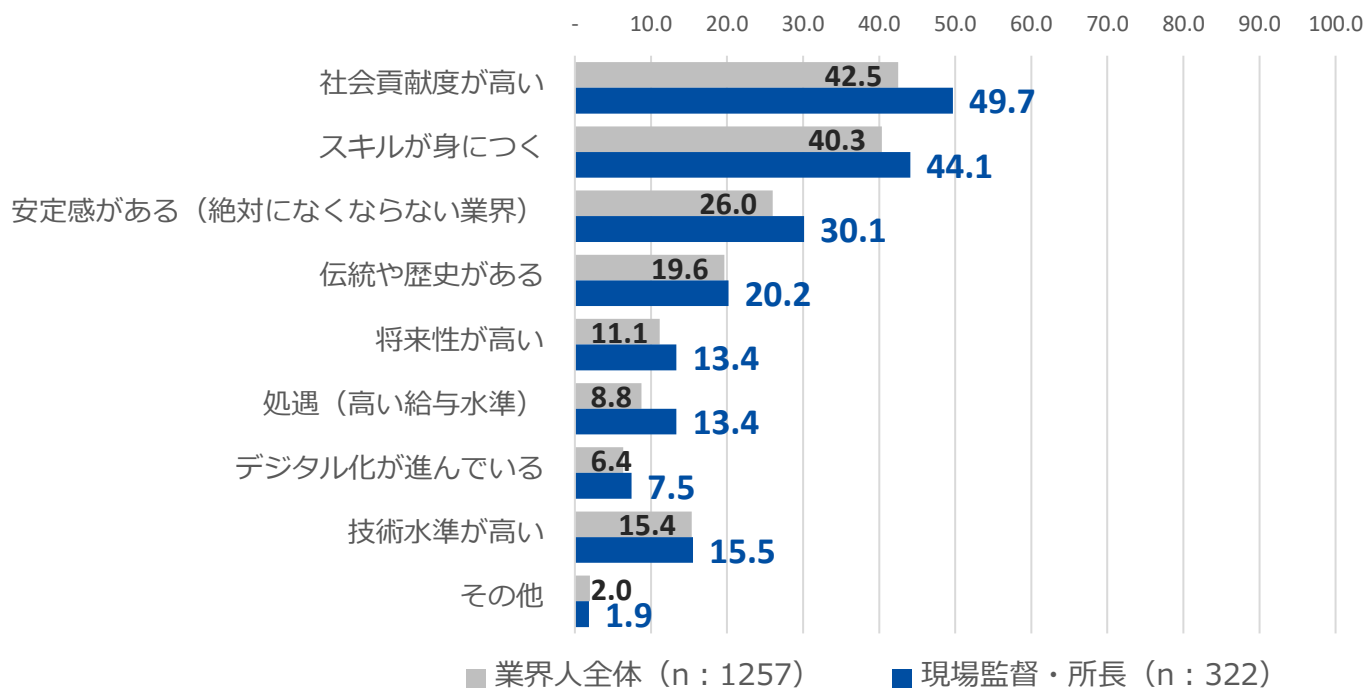
【年代別】現場監督・所長_「BIM/CIM」がノウハウ継承に有効 ※単位：%



12. 建設産業で誇りに思うこと（最大 3 つまでの複数回答）

現場監督・所長 322 人が思う「建設産業で誇りに思うこと」は、1 位「社会貢献度が高い（49.7%）」、2 位「スキルが身につく（44.1%）」、3 位「安定感がある（絶対になくならない業界）（30.1%）」で、いずれも建設産業従事者 1,257 人の回答に比べて割合が高い点が特徴的です。

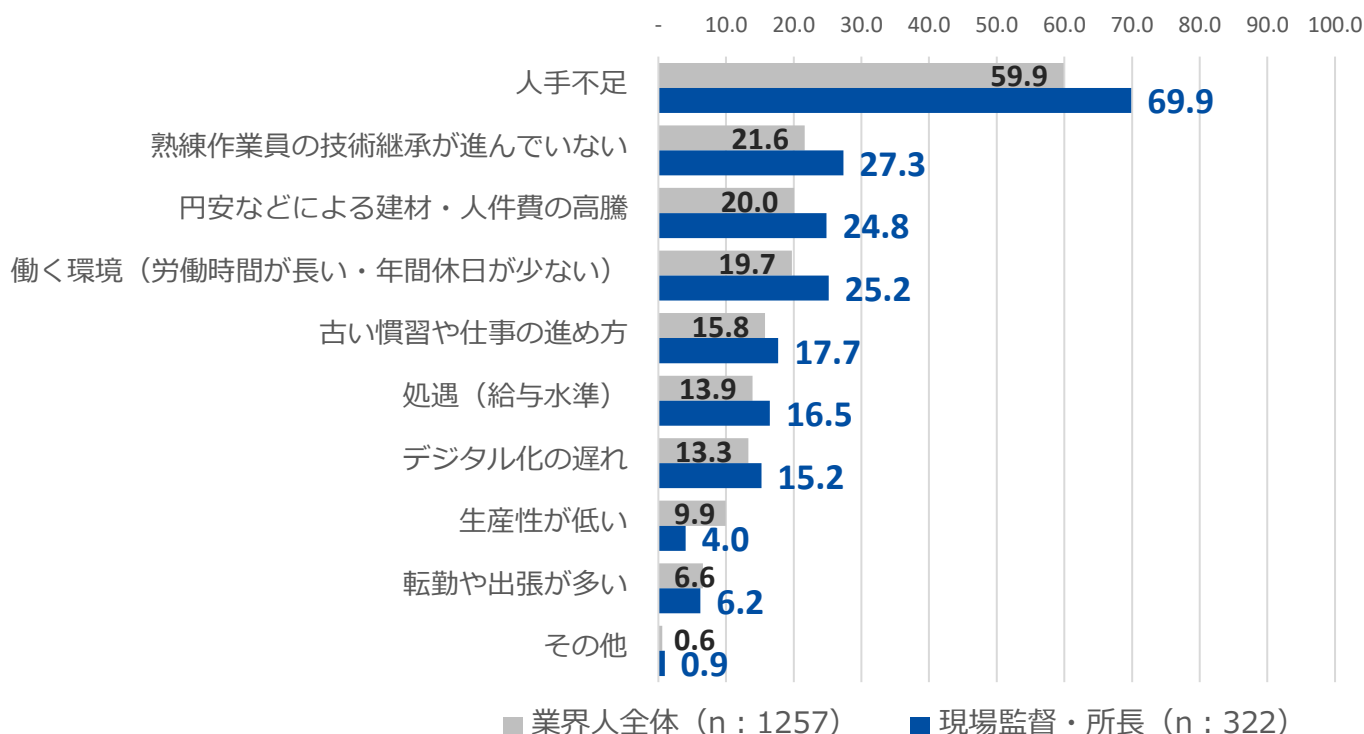
【現場監督・所長】誇りに思うこと ※最大3つまで選択可、単位：％



13. 建設産業の深刻な課題（最大3つまでの複数回答）

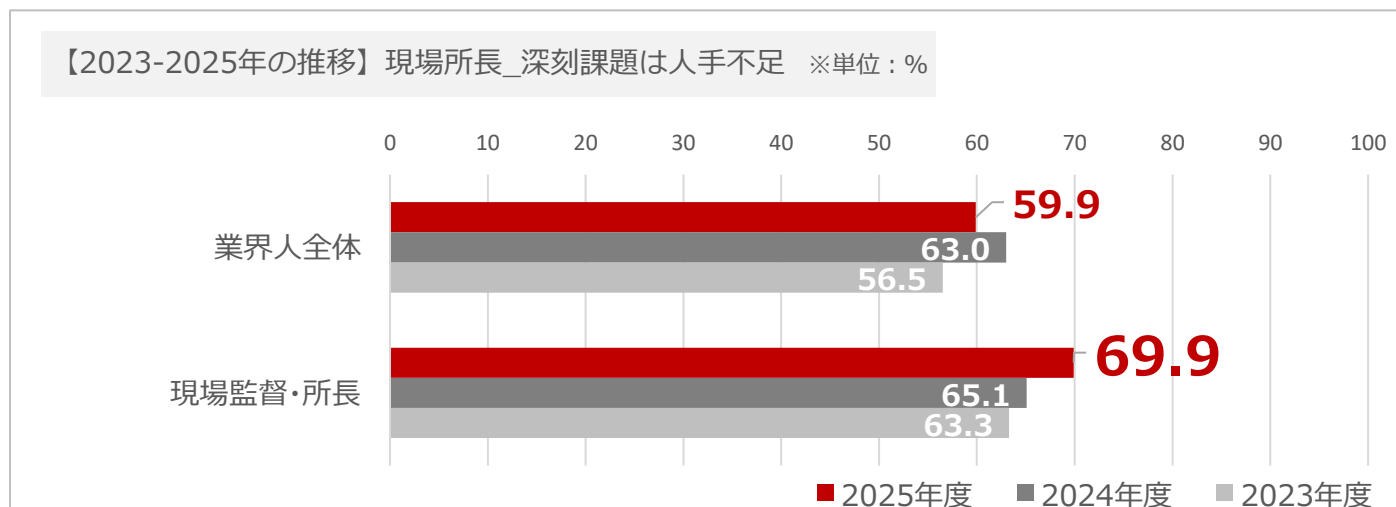
現場監督・所長 322 人が思う「深刻な課題」は、1 位「人手不足（69.9％）」、2 位「熟練作業員の技術継承が進んでいない（27.2％）」、3 位「働く環境（労働時間が長い・年間休日が少ない）（25.2％）」で、いずれも建設産業従事者 1,257 人の回答に比べて割合が高く、危機感が強いものと推測できます。

【現場監督・所長】深刻な課題 ※最大3つまで選択可、単位：％



13-1. 2023-2025 年度推移（人手不足の深刻度）

1 位「人手不足（69.9%）」を3年間の推移でみると、2023 年調査で 63.3%、2024 年調査で 65.1%と2年間で 6.6 ポイントと徐々に数値が上昇しており、かつ、建設産業従事者 1,257 人の回答結果よりも数値が高いことがわかります。このことから、現場監督・所長では、年々、人手不足への危機感が強まっていると推測できます。



以上

【本件に関する報道関係者からの問合せ先】

野原グループ株式会社
マーケティング部 ブランドコミュニケーション課
担当：齋藤
E-Mail：nhrpreso@nohara-inc.co.jp

ⁱ BIM（ビム）とは、国土交通省によれば、「Building Information Modelling」の略称で、コンピュータ上に作成した3次元の形状情報に加え、室等の名称・面積、材料・部材の仕様・性能、仕上げ等、建築物の属性情報を併せ持つ建物情報モデルを構築することです。